

匝瑳市環境審議会

会議結果

第1 日時

平成26年12月12日（金曜日） 午後1時30分から午後2時45分

第2 場所

野栄総合支所2階 会議室

第3 出席者

○会長及び委員

伊藤照子会長、林義雄副会長、石田健治委員、及川ひろ子委員、小林正幸委員、鈴木初男委員、鶴野航三委員、稗田正治委員

以上8名（会長、副会長以下五十音順）

（欠席委員 飯島正義委員、伊橋弘二委員、大木一夫委員、片岡正裕委員、弦巻孝訓委員、平山富子委員、渡邊雅仁委員 以上7名）

○事務局

環境生活課 鈴木課長、大川副主幹、布施主任主事 以上3名

第4 議事次第

1 開会

2 あいさつ（伊藤照子会長）

3 委員紹介

4 議事

（1）匝瑳市環境基本計画の進行管理に係る報告について

（2）平成27年度実施予定の市民アンケートについて

（3）東総地区広域ごみ処理計画の進捗状況について

5 その他

6 閉会

第5 会議結果

1 匝瑳市環境基本計画の進行管理に係る報告について

資料1「匝瑳市環境基本計画 定期点検・評価シート」について事務局から説明を行い、意見交換を行った。

2 平成27年度実施予定の市民アンケートについて

資料2「匝瑳市の環境に関する市民等意識アンケート調査実施要領（案）」について事務局から説明を行い、原案のとおり承認された。

3 東総地区広域ごみ処理計画の進捗状況について

東総地区広域市町村圏事務組合から東総地区広域ごみ処理計画に係る進捗状況について報告した。

4 その他

野生動植物調査及び市民アンケート調査の内容について、再度意見交換を行った。

第6 議事概要（発言要旨）

別紙のとおり

議事概要（発言要旨）

1 開会

（進行：大川副主幹）

2 委員紹介

- － 新規委員（鈴木初男委員、小林正幸委員）の紹介を行った。

3 あいさつ

- － 会議の開催に当たり、伊藤会長から挨拶を行った。

4 議事

（議長：伊藤会長）

- － 匝瑳市環境基本条例第27条の規定により、伊藤会長が議長となり、議事進行を行った。

（1）匝瑳市環境基本計画の進行管理に係る報告について

- － 配布資料に基づいて、平成25年度における施策の実施状況等及び評価について事務局から報告を行った。
- － これに対し、議長から委員に意見・質問を求めたところ、土壌中のダイオキシン類の測定値、評価方法、単位の確認のほか、野生動植物調査の実施時期についての質問を受けた。

○議長

御意見・御質問等ございましたらお願いします。

○委員A

2ページ目の「ダイオキシン類対策の推進」の中の土壌中のダイオキシン類の数値について、椿海公園、のさかふれあいスポーツランドの2点がありますが、平成21年度と平成25年度の数値を比べると確かに若干数値は上がっています。平成21年度は0.32であり、この後に福島原発の放射能の被害があり現在0.44ということですが、福島原発の事故の影響が今数値に表れていると考えてよいのかということがまず一点です。

また、平成25年度の数値は環境基準が1,000という中での0.44ですから、数値としてはごく微量と言えらると思います。これを平成21年度の数値よりも低くすると、土壌を入れ替えるなどの措置しかできないように思われますが、その辺の見方を教えていただきたい。

それから基本目標の2の「生き物と生き物の生育・生息空間の確保」にある野生動植物調査は平成32年度までに2回実施するとなっておりますが、いつの時点で実施するのかというめどがあれば教えていただきたい。

○事務局

まず、土壌中のダイオキシン類の数値が基準年度に比べて上がっており、福島原発の事故の影響があるのかという御質問ですが、大気汚染物質についても常時計測しており、異常な数値は出ていないので、土壌についてもおそらくその影響はないものと考えております。推測の域ではございますが、御理解を頂きたいと思えます。

次に、野生動植物調査につきましては、以前参考見積をとらせていただきました。調査の項目はいくつかございますが、両生類・鳥類・植物など数項目を調査するとなると見積価格が600万円となっております。これほどの金額をかけてこの調査を実施するべきなのかどうか、今後の検討課題とさせていただきたいと思えます。また、環境省が提供している「いきものログ」という生物の情報を共有できるシステムに登録したので、このデータも参考にしながら検討させていただきます。

○委員A

土壌中のダイオキシンを低減させるということですが、単に待っていれば減るものなのか、つまり平成21年度を基準とし、毎年これを下回ることが目標となると、評価がいつまでも△ということもあり得ます。これを○にするには土を入れ替えるといった方法しかないと思われそうですが、そこまで厳しい評価をする必要があるのでしょうか。

それから野生動植物調査は大きな金額がかかるので、まずはこれを計画に盛り込むことが本当に必要だったのかを検証していただきたいと思えます。

○事務局

評価の方法、野生動植物調査の実施の有無を含め、今後の検討課題とさせていただきたいと思えます。

○委員B

土壌中のダイオキシン類のところでは平成21年度の数値と平成25年度の数値で単位が違っている箇所があるので単位を統一した方がわかりやすいと思えます。また、先ほど委員Aがおっしゃったことと関連しますが、この数値の増加は誤差の範囲なのか、あるいは何か原因があって増えたものなのか、原因があるのであればこれを追及していかなければ問題は解決しないのではないのでしょうか。

○事務局

おっしゃる通り確かに単位が間違っており、申し訳ございません。土壌中のダイオキシン類の数値ですので m^3 ではなく、正しくは g ですので訂正をさせていただきます。次に土壌中のダイオキシン類の数値の増加についてですが、測定は県の事業で行っておりますので、今後県との協議の中で対策を考えていきたいと思えます。

《その他意見等なし》

(2) 平成27年度実施予定の市民アンケートについて

- 一 配布資料に基づいて、平成27年度に実施予定の市民アンケートについて事務局から説明を行った。

○議長

ただ今事務局から説明がありましたが、御質問等ございましたらお願いします。

○委員A

平成21年度にもアンケート調査を行っていると思いますが、これとリンクしてこの後を追うような形になっているのか、又は新たに設問を設けて別のアンケートの内容となっているのかお伺いしたい。

○事務局

平成21年度の調査との比較を行いたいと考えておりますので、今回のアンケートの設問は平成21年度に実施したものから変更しておりません。

《その他意見等なし》

(3) 東総地区広域ごみ処理計画の進捗状況について

- 一 東総地区広域市町村圏事務組合職員を紹介した後、同職員から東総地区広域ごみ処理計画の進捗状況についての報告を行った。

5 その他

- 一 委員から野生動植物調査、市民アンケートについて再度意見を受けた。

○委員B

野生動植物調査には多額の費用がかかるということですが、こうした項目は大切だと思います。生物の調査としての基本を踏まえながら、最低限の調査は実施していただきたいと思います。高校の教諭なども調査の方法を知っていますし、大学の先生とのつながりを持っている方もいるので、業者に全て頼むのではなくそのようなルートも考えられます。環境基本計画を策定したときの委員がこの調査を計画に盛り込んだので、予算の範囲内でできる限り実施していただきたい。

○事務局

以前にも、野生動植物にお詳しい高校の先生に御指導をいただきたいということでお話をさせていただきました。その中で、一度見積をとってみたいかどうかということだったので今回見積をとらせていただいた訳ですが、今後こうした専門の方々と調整しながら考えていきたいと思っています。

○委員C

アンケート調査について、20歳以上が対象のアンケートと小中学生が対象のアンケートで内容が同じ設問がいくつかあります。特に小学生には難しいと思われる内容があるので、見直していただけないでしょうか。

○事務局

アンケートの内容については、小中学校の先生方とも相談しながら、修正すべき点があれば修正させていただきたいと思います。

○委員C

例えば、小学生のアンケートの3ページ問8の7は「ゴミが外国に運ばれて生じる環境おせん」となっていますが、中学生、20歳以上向けのアンケートでも同じ内容です。この内容を小学5年生が理解できるのか、環境汚染ということで捉えられれば良いのですが、同じように言葉を多少変えてあっても内容が同じという設問がいくつもあります。学校の先生がこれで良いといえ良いのかもしれませんが、レベルとしてどうなのかと思います。

○事務局

アンケートの文言等については、教育委員会、小中学校の先生方とも相談をさせていただき、修正する箇所があれば修正させていただきます。設問の内容は前回のアンケートとリンクさせる必要がありますので、基本的にはこの内容で実施させていただきたいと考えております。

《その他意見等なし》

6 閉 会

以 上